



200年の伝統をITアシスト!

川出 和希

日本酒 エレクトロニクス

ご購入はこちら

第4回 リサイクル瓶の洗浄温度を一定に保つ



写真1 一升瓶にはいろいろある

左から透明、白すりガラス、緑すりガラス、緑色、黒色、茶すりガラス、茶色。光をできるだけさえぎることができる茶色がスタンダード



写真2 一升瓶は流通量が多いのでリサイクルが確立されているさまざまな形/サイズの容器。1合瓶以外はお酒を入れ栓をして販売されている

一升瓶はリサイクル

日本酒の容器には大小さまざまなサイズがあります。最も使われているのは昔からある一升瓶です。今回はいろいろな種類の瓶の紹介および一升瓶のリサイクルの過程を紹介し、その後、一升瓶を洗う装置の温水を一定に保つ技術を紹介します。



写真3 リサイクル一升瓶を洗う専用の洗瓶機

● 日本酒の容器の豆知識

現在、日本酒の容器として最も流通しているのは一升瓶です。一升という名の通り容量は1800mlと決まっています。写真1に示すようにさまざまな色や透明度のものが存在します。他にも青色や水色の瓶が存在します。

この中でもダントツに使われているのは茶色の瓶です。日本酒は光が当たると色や香りに好ましくない変化が生じてしまうため、可能な限り光をさえぎる茶色の瓶が昔から多く使われてきました。

写真2にいろいろなサイズの容器を示します。飲食店では一升瓶がよく使われますが、一般家庭向けに手軽なサイズのものが登場しています。

● 一升瓶に求められること…リサイクル品だから丁寧に洗う

一升瓶は主に酒屋さんにて回収され、洗浄・検査の後、再度お酒を詰めて出荷されます。洗浄に使う装置を写真3に、洗浄している様子を写真4に示します。業務用の洗剤が入った高温の洗浄水を高圧で噴射し、ラベルや大きな汚れを落とし、細かい汚れなどは全て溶かして落とします。

洗い終わった瓶は全数チェックし(写真5)、お酒を詰めます。一升瓶以外にも再利用されていますが、流通量が少ないため新瓶が使われることが多いようです。

- 第1回 重要工程①「米麴作り」時の温度センシング (2017年7月号)
- 第2回 全自動「お酒搾り」のための水位センシング (2017年8月号)
- 第3回 「瓶詰め」自動化のための重量センシング (2017年9月号)